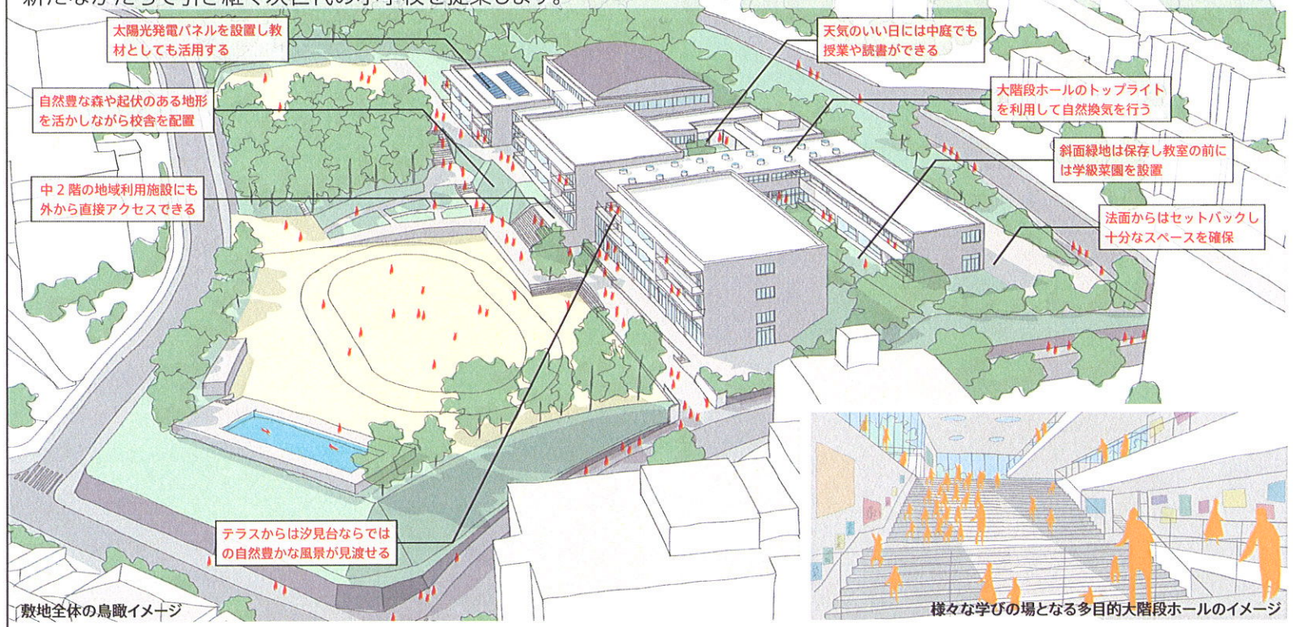
（要項様式３）　　提案書(提案項目)

件名	汐見台小学校建て替え工事に伴う設計業務委託	事務所の商号又は名称	株式会社 飯田善彦建築工房

(1)施設計画の考え方についての提案

豊かな緑と共にあるおおらかな学び舎

この敷地の特徴は何よりも南側にゆるやかに傾斜する東西に幅のある形状と、森を含む豊かな緑地にあります。既存校舎は分散型とも言える極めて特徴的な配置とプレコンによる独創的な建築形状が計画当時の子供たちの学び舎のための極めて挑戦的な建築的意志が結実したものと思われます。私たちはこの独創性を十分に評価し、回遊性、採光、通風を最大限に取り入れながら、新たなかたちで引き継ぐ次世代の小学校を提案します。



敷地全体の鳥瞰イメージ

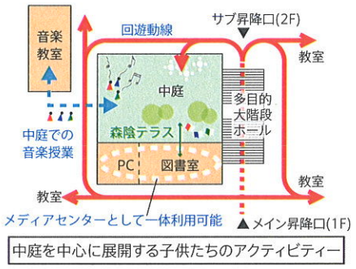
様々な学びの場となる多目的大階段ホールのイメージ

■様々な教育環境にフレキシブルに対応する平面計画

□基本構想A案の配置ゾーニングの方針、現況地盤レベル、森と２つのグラウンドの位置を考慮し、教室群を南側にまとめ、レベル差を利用し、緑地を挟んで上部に特別教室群、給食室、体育館を配し、それらを結ぶ**多目的大階段ホールを新たな汐見台小学校の中心**に位置づけます。

□**各教室に向かう動線の要**に位置する多目的大階段ホールは、普段からみんなが集い開放的な階段教室や発表会のときには観客席となり**子どもたちの拠り所**になります。

□図書室にPC教室を併設し2階中央に中庭と一体に整備し、**学校全体のメディアセンター**として活用することで、**教育環境の向上**に寄与します。



□**音楽教室は屋内運動場に隣接**させることで、発表会や集会時の楽器等の移動、楽屋利用をしやすくし他の教室への音の影響にも配慮します。また、**中庭に接続**しメディアセンターの一角にもなります。

□**職員室をグラウンドと正門が視認できる位置**に配置し、職員室を中心に管理諸室を集約することで**管理運営のしやすい計画**とします。

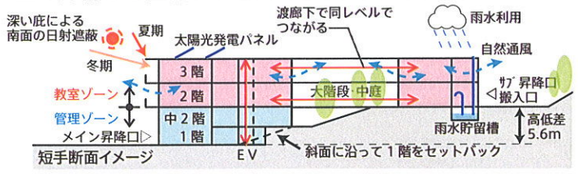
□特別・個別支援教室は上段の地上レベル（2階）に配置し、教室の前には学級菜園を併設した**落ち着いた雰囲気**をつくります。

□**普通教室群は全てグラウンド側**に配置し、学年ごとに雁行させることで**学年単位で集まれるワークスペース**（WS）をつくります。また、普通教室の近くに多目的教室を配置することで、**様々な授業の形態や児童数の変化にも柔軟に対応**できるようにします。

■高低差を活かした機能的で効率の良いゾーニングと既存校舎・大階段のイメージを発展的に受け継いだ新たな学び舎の提案

□5.6mのレベル差を活かして中二階をつくり、管理ゾーンを下層にまとめ、上二層を教室ゾーンとする明快な断面構成により誰もが使いやすい**ユニバーサルデザイン**を実現します。

□敷地の傾斜を利用することでキッズルーム等の地域利用室は**全て外部から直接アクセス**できるようにします。



短手断面イメージ

□校舎を敷地の**段差に沿って雁行**させることで、現状地盤を残し土工事量を削減して**コストを低減**します。（平面計画参照）

□構造躯体のﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ(PCa)化の検討や、将来のインフィルの更新に配慮した十分な設備スペースの確保等により**施設の長寿命化**を図り、**ライフサイクルコストを低減**します。

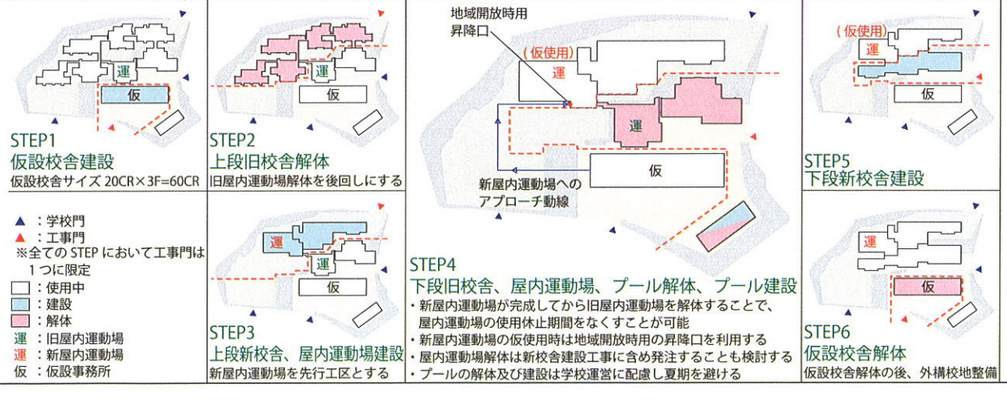
□大階段や中庭を活かした採光・通風や自然エネルギーの積極活用により**ﾗｲﾌｻｲｸﾙCO２を低減しCASBEE-S**ﾗﾝｸを目指しま

階構成のイメージ

(2)工事中の安全・学校運営への配慮についての提案

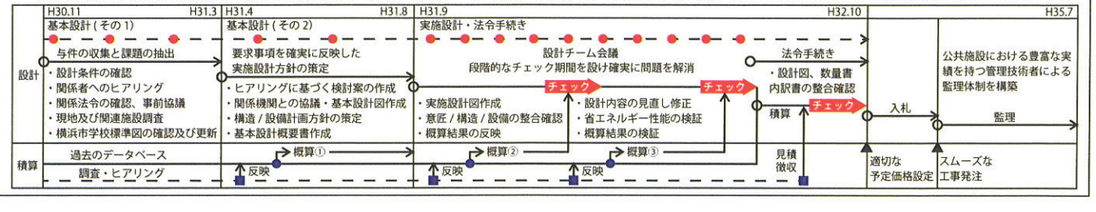
□**工事エリアと学校エリアを明確に区分**しアプローチ動線も含め両者が交錯しないように配慮します。

□**分散型の既存校舎の特徴を活かし**、上段の校舎から解体を進め屋内運動場の解体時期を最後にまわし、新設校舎は屋内運動場を先行工区として仮使用を行うことで**屋内運動場の使用休止期間をなくします。**



(3)業務の成果物等の品質確保、業務の進め方と取組体制についての提案

□**フロントローディング型設計手法**により基本設計時にヒアリングや事前調査を重点的に行い、課題を抽出し要望事項を初期段階で確実に設計内容に反映し、情報共有を円滑に行うことで手戻りや確認漏れを防止します。

□管理技術者を核とする**市内で小学校の設計実績を持つ設計ﾁｰﾑ体制**で臨み、豊富な経験と知識に基づき、市の設計基準や設計過程を熟知した**監査担当者による成果物の確認**を徹底し設計の質を担保します。

□意匠・構造・設備・積算の連携を密にする**設計ﾁｰﾑ会議を定例化**しｽｹｼﾞｭｰﾙとｺｽﾄ管理を徹底。**模型を都度つくり情報を共有し、第三者を加えたデザインレビュー**により各分野の整合の取れた精度の高い成果物をまとめます。